

\*\*\*\*\*  
\*\*  
\*\* ソフトウェア説明書 \*\*  
\*\*  
\*\* Interstage List Creator デザイナ 体験版 V9.0.1 \*\*  
\*\*  
\*\*\*\*\*

ソフトウェア説明書は、製品の取り扱い、ご使用に際して特に注意すべき事項、参考となる情報等を記したものです。

CD-ROMに収められた各ソフトウェアの使用方法や注意事項については、CD-ROMに収められたPDF形式のオンラインマニュアルをお読みください。

[本製品について]

Interstage List Creator デザイナ 体験版（以降、体験版と表記）は、実際の製品を評価するために使用できます。

体験版に含まれているプログラムの使用期間はインストール後90日に限定されており、この期間を超えてプログラムを使用することはできません。

本プログラムは評価用プログラムであるため、富士通株式会社（以降、富士通と表記）は、本プログラムに関して一切の動作保証をするものではありません。また、本プログラムに不備があっても、富士通はその修正および、その他いかなる保守作業をする義務も負いません。

富士通は、本プログラムで発生した結果、および生成物について保証するものではありません。また、本プログラムの使用により生じた損害ならびに、第三者に直接または間接的に生じた損害について、富士通は法律上の根拠を問わずいかなる責任も負わないものとし、お客様はいかなる請求もしないものとします。

本プログラムを改造したり、あるいは逆コンパイル、逆アセンブルを伴うリバースエンジニアリングを行う事ができません。

製品版と体験版の違いについては、「6. 製品版と体験版の違い」を参照してください。

[高度な安全性が要求される用途への使用について]

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客さまがハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

本ソフトウェア説明書では、各製品を次のように略記しています。あらかじめご了承ください。

- ・「Microsoft (R) Windows (R) 2000 Professional operating system、および Microsoft (R) Windows (R) 2000 Server operating system、および Microsoft (R) Windows (R) 2000 Advanced Server operating system」  
→ 「Windows2000」
- ・「Microsoft (R) Windows (R) XP Professional operating system、および Microsoft (R) Windows (R) XP Home Edition operating system」  
→ 「WindowsXP」
- ・「Microsoft (R) Windows Server (R) 2003, Standard Edition、および

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition」
- 「Windows Server 2003」
- ・ 「Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate、および
- Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise、および
- Microsoft(R) Windows Vista(R) Business、および
- Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Premium、および
- Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Basic」
- 「WindowsVista」
- ・ 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)」
- 「Windows Server 2008」
- ・ 「Microsoft(R) SQL Server(TM) 2005 Standard Edition、および
- Microsoft(R) SQL Server(TM) 2005 Enterprise Edition」
- 「SQL Server 2005」
- ・ 「Microsoft(R) SQL Server(TM) 2005 Integration Services」
- 「SSIS」
- ・ 「Microsoft(R) SQL Server(TM) 2005 Business Intelligence Development Studio」
- 「SQL Server 2005 Development Studio」
- ・ 「Fujitsu XML Library」
- 「XML Library」
- ・ 「Interstage List Creator Enterprise Edition」
- 「List Creator EE」
- ・ 「Interstage List Creator Standard Edition」
- 「List Creator SE」
- ・ 「Interstage List Creator Workstation」
- 「List Creator Workstation」
- ・ 「Interstage List Creator Connector」
- 「List Creator Connector」
- ・ 「Interstage List Creator デザイナ」
- 「List Creator デザイナ」
- ・ 「Interstage List Creator」
- 「List Creator」
- ・ 「SystemWalker/ListCREATOR、および Systemwalker ListCREATOR」
- 「ListCREATOR」

本ソフトウェア説明書は、以下の構成で記述されています。

1. 製品概要
2. 動作環境
3. インストール／アンインストールについて
4. Fujitsu XML Libraryについて
5. SSIS連携機能について
6. 製品版と体験版の違い
7. オンラインマニュアルについて
8. サンプルについて
9. 留意事項
10. セキュリティについて
11. ご使用条件

## 1. 製品概要

List Creatorは、本格的なビジネス帳票を設計し、出力するためのソフトウェアです。  
List Creator デザイナを使用すると、罫線や網がけなどを駆使した見やすいビジネス帳票を速く、簡単に設計できます。

本製品は、1枚のCD-ROM媒体で構成されています。  
CD-ROMに収められている主なファイルは、以下のとおりです。

¥	----	Readme.txt		ソフトウェア説明書（本書）	
		+	----	Autorun.exe	List Creator デザイナのインストーラ
		+	----	Manual¥ -- LCManavi.exe	マニュアルナビ(*1)
				<オーバーレイユーティリティ>	
		+	----	Ovdut¥	
				+	----
				ISsetup.exe	オーバーレイユーティリティのインストーラ
				+	----
				Ovdut.pdf	オーバーレイユーティリティのオンラインマニュアル
				<Fujitsu XML Library>	
		+	----	XML¥ -- FujitsuXMLLib.msi	Fujitsu XML Libraryのインストーラ
				<SSIS連携機能>	
		+	----	LCSSIS¥ -- setup.exe	SSIS連携機能のインストーラ

(\*1) マニュアルナビとは、オンラインマニュアルを参照するためのツールです。詳しくは、「7. オンラインマニュアルについて」を参照してください。

#### <オーバーレイユーティリティについて>

オーバーレイユーティリティは、任意のアプリケーションプログラムから印刷を行うことにより、オーバーレイファイルを作成するためのソフトウェアです。オーバーレイユーティリティを使用すると、使い慣れたツールで設計した帳票イメージや、インターネットで公開されている PDFファイルの帳票イメージなどを簡単にオーバーレイファイルに変換することができます。

詳細については、CD-ROMのOvdutフォルダ配下のオンラインマニュアル(Ovdut.pdf)をご覧ください。

なお、オーバーレイユーティリティの旧V/Lがインストールされている環境に、当V/Lのオーバーレイユーティリティを上書きインストールすることはできません。

旧V/Lのオーバーレイユーティリティをアンインストールしてから、インストールしてください。

#### <Fujitsu XML Libraryについて>

List CreatorでXML形式の入力データを使用して帳票を出力する、またはXMLファイルを参照して帳票を設計する場合に必要です。

List Creatorには、Fujitsu XML Library V5.2を同梱しています。

(\*Fujitsu XML Libraryは、XML SDK のFujitsu XMLプロセッサに含まれる

Windows版 COMコンポーネントの実行ライブラリです。

XML Libraryは、DOMおよびSAXアプリケーションインタフェースを提供しています。

<SSIS連携機能について>

SSIS連携機能は、SSISを使って帳票を出力する機能です。SSISでList Creatorを利用するためのデータ フロー コンポーネントを提供します。帳票出力にはList Creatorを使用します。SSISパッケージを実行することによりList Creatorを実行し、帳票を出力します。

2. 動作環境

2. 1 ソフトウェア

本製品をご使用になるには以下のソフトウェアが必要です。

基本ソフトウェア

- Windows2000
- WindowsXP
- Windows Server 2003
- WindowsVista
- Windows Server 2008

関連ソフトウェア

(1) 帳票の設計時に必要となるソフトウェア製品

出力方法	出力先
必要なソフトウェア製品	
共通	
SystemWalker/CharsetMGR V5.1L20以降 Interstage Charset Manager Standard Edition V6.0L10以降 Interstage Charset Manager Standard Edition Agent V6.0L10以降	または または (*)

\*1: 利用者定義文字を使用する場合、および帳票をSolaris上に移行するためにEUC(S90)に変換する場合に必要です。

(2) XML形式の入力データを使用して帳票を出力する、またはXMLファイルを参照して帳票を設計する場合に必要なソフトウェア製品

- Fujitsu XML Library V3.0以降、または富士通XMLプロセッサ V3.0以降 (\*1)
- Internet Explorer

\*1: 帳票資源の格納先、または帳票の出力先をUNC指定とする場合は、Fujitsu XML Library V5.2以降が必要です。

(3) DTDファイルを参照して帳票を設計する場合には、以下が必要です。

- Internet Explorer

(4) OCI連携機能によるデータベース(Oracle)連携を使用する場合に必要なソフトウェア製品

List CreatorでのOCI連携機能によるデータベース(Oracle)連携は、Oracle8/Oracle8i/Oracle9iをサポートしています。OCI連携機能によるデータベース(Oracle)連携を使用する場合は、Oracleに添付されるOracle Call Interfaceが必要です。

(5) Database Direct連携機能を使用して問合せファイルを設計する、またはウィ

ザードにて問合せ情報ファイルを参照して帳票を設計する場合に必要なソフトウェア製品

- Interstage List Manager Database Direct V7.0L10に同梱のNavigator Client

(6) Navigator連携機能を使用して帳票を設計する場合に必要なソフトウェア製品

- Interstage Navigator Server V8.0.0以降に同梱のNavigator Windows クライアント

(7) XBRLデータ対応機能を使用して帳票を設計する場合に必要なソフトウェア製品

- Interstage XWand Developer V7.0L20以降
  - Interstage XWand パーソナル運用パッケージ V7.0L20以降
- または
- Microsoft(R) .NET Framework Version 1.1
  - Internet Explorer 6.0 SP1以降

(8) その他の関連ソフトウェア製品  
その他の関連ソフトウェア製品に関しては、富士通のホームページの  
Interstage 帳票ソリューション 関連製品を参照してください。

## 2. 2 必要ハードウェア

(1) ディスク容量

- List Creatorのインストールフォルダ 135MB
- オペレーティングシステムのシステムフォルダ 15MB

(2) メモリ資源

メモリ48Mバイト以上

なお、「帳票様式定義画面」で下敷きイメージの表示機能、下敷きイメージのオーバレイ変換機能、およびOCR認識機能を使用する場合は、以下のメモリが必要です。

- モノクロ : 60Mバイト以上
- カラー : 100Mバイト以上

Navigator連携機能を使用して帳票を設計する場合は、以下のメモリが必要です。

84Mバイト以上

XBRLデータ対応機能を使用して帳票を設計する場合は、以下のメモリが必要です。

64Mバイト以上

SSISパッケージ設計する場合は、以下のメモリが必要です。

192Mバイト以上

(3) ディスプレイ

帳票設計時には解像度800×600ピクセル以上のディスプレイが必要です。  
推奨解像度は 1024×768ピクセル以上です。

## 2. 3 環境変数の指定について

本製品のインストール時、環境変数PATHIにList Creatorのインストールフォルダ名が自動的に追加されます。

3. インストール／アンインストールについて  
お客様は本製品の体験または評価のために必要な範囲で、本製品を複数台にインストールできます。  
また、製品版をインストールする場合は、本製品、およびList Creatorの体験版をアンインストールしてください。
3. 1 インストール
3. 1. 1 インストール手順
- (1) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
- (2) Windows 2000 Server、Windows Server 2003、Windows Server 2008のターミナルサービスをお使いの場合は、オペレーティングシステムの状態をInstallモードに変更してください。
- change user /install .... Installモードに変更する。  
change user /execute .... Applicationの実行モードに変更する。  
change user /query .... モードを表示する。
- なお、本製品のインストール後はApplicationの実行モードに戻してください。
- (3) 本製品のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。  
インストールプログラムが自動的に起動されます。  
自動的に起動されない場合には、CD-ROM内のルート直下にあるAutorun.exe を実行してください。
- (4) 「インストール」をクリックします。
- (5) インストーラが起動されますので、表示されるメッセージにしたがってインストールを行います。
- (6) コンピュータの再起動後、インストールを完了させるためにAdministratorsグループに属するユーザでログインします。
3. 1. 2 インストールに関する留意事項
- (1) 本製品のインストールは、必ず付属のインストールプログラムで行ってください。  
COPYコマンドなどで複製した場合は動作しません。
- (2) インストールフォルダのパスには、「¥」の前後、およびパスの最後に半角空白を指定しないでください。
- (3) 以下の製品がインストール済みのシステムに対して本製品をインストールすることはできません。該当製品をアンインストール後、本製品をインストールしてください。
- 「List Creator EE」
  - 「List Creator EE ソフトウェアLOOK版」
  - 「List Creator EE 体験版」(\*1)
  - 「List Creator SE」
  - 「List Creator Workstation」
  - 「List Creator Connector」
  - 「List Creator デザイナ」
  - 「List Creator デザイナ ソフトウェアLOOK版」
  - 「List Creator デザイナ 体験版」(\*1)
  - 「SystemWalker/OutputASSIST」
  - 「SystemWalker for R/3 プリント連携」
  - 「SystemWalker for Oracle Applications プリント連携」
  - 「SystemWalker/e-DocGenerator」
  - 「デルバイ for MetaFrame」
  - 「Interstage List Manager Agent」
  - 「Interstage List Manager Workstation」

\*1 : バージョンレベルが同じ場合は、アンインストールする必要はありません。

- (4) 既に「Interstage List Creator for MetaFrame V6.0L10」、または「Systemwalker ListCREATOR for MetaFrame V10.0L30」をインストール済みのシステムに対して本製品をインストールできません。  
「Interstage List Creator for MetaFrame V6.0L10」、または「Systemwalker ListCREATOR for MetaFrame V10.0L30」をアンインストール後、本製品のインストールを行ってください。
- (5) 本製品をインストールした場合、必ずコンピュータを再起動し、再起動後に Administratorsグループに属するユーザでログインしてください。  
Administratorsグループに属するユーザでログインしないと一部モジュールがインストールされず、正しく動作しない場合があります。
- (6) インストール直後の帳票格納ディレクトリは、以下のフォルダとなります。  
(インストールフォルダ)¥Assets  
環境に合わせて、環境設定または帳票定義一覧で変更してください。
- (7) 本製品がインストール済みのシステムに以下の製品はインストールすることができません。本製品をアンインストール後、該当製品をインストールしてください。
  - 「List Creator EE」
  - 「List Creator SE」
  - 「List Creator Workstation」
  - 「List Creator Connector」
  - 「List Creator デザイナ」
  - 「Interstage List Manager Agent」
  - 「Interstage List Manager Workstation」また、本製品がインストール済みのシステムにList Creatorをインストールした場合、以下のメッセージが表示されます。  
「製品版と体験版を同一のシステムにインストールすることはできません。」
- (8) インストール時にPATH (システム環境変数) にList Creatorのインストールディレクトリを設定しますが、設定前のPATH (システム環境変数) が長いなどの理由により、正常に設定されない場合があります。その場合は、オペレーティングシステムのマニュアルを参照して、PATH 変数にList Creatorのインストールディレクトリを追加してください。  
List Creatorのデフォルトのインストール先は、「C:¥ListCREATOR」です。
- (9) Windows Defender がインストールされている環境に本製品をインストールした場合、Windows Defenderの履歴に以下の内容が「警告レベル：不明」として記録されることがありますが、そのままお使いいただいて問題ありません。
  - リソース : service:ListCREATOR Log Service
  - リソース : regkey:HKLM¥Software¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥RunOnce¥¥ListCREATOR SAP Monitor
  - リソース : regkey:HKLM¥Software¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥RunOnce¥¥List Creator
  - リソース : regkey:HKLM¥Software¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥RunOnce¥¥LC\_DataSource\_DS
- (10) WindowsVistaに本製品をインストールした場合、イベントビューアのアプリケーションログに、以下のエラーが出力されることがありますが、そのままお使いいただいて問題ありません。
  - ソース : VSS
  - イベントID : 8194
- (11) 本製品、および本製品のCD-ROM媒体に含まれる製品がインストールされているオペレーティングシステムをアップグレードする場合、本製品、および本製品のCD-ROM媒体に含まれる製品をアンインストールしてから、オペレーティングシステムのアップグレードを行ってください。

また、オペレーティングシステムのアップグレード後に必要な製品をインストールしてください。

3. 1. 3 List Creator V9.0.1の他製品を同一マシンに追加インストールする手順
  - (1) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
  - (2) List Creatorプログラムが動作中の場合は、アプリケーションを終了します。
  - (3) インストールを行う製品のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。  
インストールプログラムが自動的に起動されます。  
自動的に起動されない場合には、CD-ROM内のAutorun.exe を実行してください。
  - (4) 「インストール」をクリックします。
  - (5) インストーラが起動されます。
  - (6) 「変更」を選択し「次へ」ボタンを押します。
  - (7) インストール済みの製品と、インストールを行おうとしている製品の製品名が表示されます。確認し問題が無ければ「次へ」ボタンを押し表示されるメッセージに従ってインストールを続行します。
3. 1. 4 List Creator V9.0.1 の他製品を同一マシンに追加インストールする場合の注意事項
  - (1) 他製品を追加インストールする場合は、インストールフォルダのサブフォルダ配下のユーザ資源を退避してください。  
ユーザ資源とは以下のファイルです。
    - 帳票定義情報 (帳票格納ディレクトリ配下のファイル)
    - クエリ定義 (「インストールフォルダ¥Query」配下のファイル)
    - 仕分け定義 (「インストールフォルダ¥Assort」配下のファイル)
  - (2) (インストールフォルダ)¥PrdocFMTフォルダは無条件で上書きされます。  
必要に応じて退避してください。
3. 2 アンインストール
  3. 2. 1 アンインストール手順
    - (1) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
    - (2) List Creatorプログラムが動作中の場合は、アプリケーションを終了します。
    - (3) [コントロールパネル] から「ListCREATOR」をアンインストールします。
    - (4) コンピュータを再起動します。
  3. 2. 2 手動で製品を削除する場合の手順  
インストール時の不測の事態により、再インストールまたはアンインストールが正常に動作しなくなった場合、以下の手順によりハードディスク上から全ての関連資産を削除することで元の環境に復旧することができます。  
なお、この作業を行う前に起動中のアプリケーションをすべて終了させてください。
    - (1) サービスを停止します。  
[コントロールパネル] の [管理ツール] の [サービス] を起動し、以下のサービスが起動されている場合に停止します。
      - ListCREATOR Log Service
      - Print Spooler
    - (2) フォルダを削除します。
      - a) List Creatorのインストールディレクトリ  
[エクスプローラ] を起動し、インストール時に指定したフォルダを削除し

てください。

以下にデフォルトのフォルダ名を記述します。これを参考に該当するフォルダを削除してください。

なお、該当するフォルダ配下にユーザ資源がある場合は、必要に応じて退避してください。

- (インストールドライブ):%ListCREATOR

b) Windowsディレクトリ配下System32サブディレクトリ内の以下のファイル

- f3gbsmon.dat  
- f3gbsmon.dll

(3) レジストリを削除します。

[レジストリエディタ] (Windowsフォルダ配下のSYSTEM32サブフォルダ内の [REGEDT32.EXE]) を起動し、以下のレジストリキーのうち該当するキー配下を全て削除してください。

a) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Fujitsu配下の以下のキー

- ListCREATOR  
- SystemWalker/OutputASSIST

b) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Fujitsu¥Install配下の以下のキー

- ListCREATOR

c) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥EventLog ¥Application配下の以下のキー

- ListCREATOR  
- ListCREATOR:MeFt  
- ListCREATOR MeFt  
- F3GBSVLG  
- F3GBCONC

d) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services配下の以下のキー

- ListCREATOR Log Service

e) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Print ¥Monitors配下の以下のキー

- FUJITSU ListCREATOR RDI Connect Port

f) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion ¥Uninstall配下の以下のキー

- [9c4b7cdf-6d79-41b5-8620-c7ab2511b1e3]

g) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion ¥App Paths配下の以下のキー

- Prprint.exe

h) HKEY\_CURRENT\_USER¥SOFTWARE¥Fujitsu配下の以下のキー

- SystemWalker/OutputASSIST

(4) PATH (システム環境変数) を削除します。  
[コントロールパネル] の [システム] アイコンを起動し、[詳細] タブから [環境変数] を押して環境変数画面を表示します。システム環境変数の "Path" 部を選択後、[編集] ボタンを押して編集画面を表示し "変数値" から (2) のフォルダパス、およびそのフォルダパスを含んだパス名をすべて削除し、[OK] ボタンを押します。

(5) アイコン／グループを削除します。  
[エクスプローラ] で以下のファイルを削除してください。

(システムドライブ):¥Documents and Settings¥All Users  
¥スタート メニュー¥プログラム配下の以下のフォルダ (\*1)

- List Creator

\*1:WindowsVista、または Windows Server 2008の場合、アイコン／グループのパスは以下の通りです。

(システムドライブ):¥ProgramData¥Microsoft¥Windows  
¥スタート メニュー¥プログラム

(6) インストーラのフォルダを削除します。  
[エクスプローラ] を起動し、以下のフォルダを削除してください。

- (%ProgramFiles%)¥InstallShield Installation Information  
¥{9C4B7CDF-6D79-41B5-8620-C7AB2511B1E3}

注: %ProgramFiles%は環境変数を表します。通常は以下のフォルダです。

- (システムドライブ):¥Program Files

(7) 上記操作の終了後、コンピュータの再起動を行ってください。

### 3. 2. 3 アンインストール時の留意事項

アンインストール実行中に、キャンセルボタンを押下してアンインストールを中断した場合、アンインストール開始から中断までに削除された一部のファイルは復旧されません。また、一部の環境設定情報も削除されます。

アンインストールを中断した場合、それ以降は製品が正しく動作しませんので、再度アンインストールを実行し、すべてのファイルおよび環境を削除した上で、再度インストールを行ってください。

## 4. Fujitsu XML Libraryについて

### 4. 1 Fujitsu XML Libraryのインストールと注意事項

List CreatorでXML形式の入力データを使用して帳票を出力する、またはXMLファイルを参照して帳票を設計する場合に必要です。

製品媒体 (CD-ROM) のXMLフォルダ配下に格納されているFujitsuXMLLib.msiを起動します。以降は、インストールプログラムの指示に従ってインストールを進めてください。

XML Libraryのインストールを開始する前に、「4. 2 Fujitsu XML Libraryをインストールする前に」を参照してください。XML Libraryのインストール時に、「Windows Installerを起動できません。管理者にお問い合わせください。」のメッセージが表示され、インストールが完了しない場合は、「4. 3 Fujitsu XML Libraryインストール失敗時の回避策について」を参照してください。

### 4. 2 Fujitsu XML Libraryをインストールする前に

List Creator以外の製品にXML SDKまたはXML Libraryが同梱され提供されているこ

とがあります。XML SDKまたはXML Libraryの提供する機能は、システム上に1つしか存在できませんので、他の製品が利用しているXML SDKまたはXML Libraryを無条件に置き換えることは、他の製品の動作不具合を招くことが考えられます。このため、現在お使いのシステムの状況を確認し、状況に合わせて対応する必要があります。

以下の手順でシステムの状況を確認し、インストール作業を実施してください。

- (1) 「コントロールパネル」から「アプリケーションの追加と削除」を選択してください。
- (2) 「現在インストールされているプログラム」一覧に、XMLプロセッサ（以下のいずれか）が存在するか確認してください。
  - Fujitsu XMLプロセッサ Vx.x
  - Fujitsu XML Processor Vx.x
  - Fujitsu XML Library (x.x.y.y)
- (3) XMLプロセッサが存在していない場合には、List Creatorに同梱されているXML Libraryをインストールしてください。
- (4) 既にインストールされているXMLプロセッサのバージョンレベル(x.xの部分)が、3.0、3.1または、5.0である場合は、List Creatorに同梱されているXML Libraryのインストールは不要です。  
ただし、帳票資源の参照先、または帳票の出力先をUNC指定とする場合は、Fujitsu XML Library V5.2以降をインストールしてください。
- (5) 既にインストールされているXMLプロセッサのバージョンレベルが、3.0未満である場合は、以下の手順で本製品をインストールしてください。  
現在XMLプロセッサを利用/同梱している製品を、V3.0、V3.1、V5.0またはV5.2のXML SDKに対応する版にバージョンアップした後、本製品をインストールしてください。

#### 4. 3 Fujitsu XML Libraryインストール失敗時の回避策について

Fujitsu XML プロセッサのインストール時に、Windows Installerコアモジュールのインストールで「Windows Installerを起動できません。 管理者にお問い合わせください。」のメッセージが表示され、インストールが完了しない場合があることが確認されています。

以下の手順に従って作業をしてください。

- (1) CD-ROMドライブにCD-ROMをセットします。
- (2) [スタート]-[すべてのプログラム]-[アクセサリ]のコマンド プロンプトを起動します。
- (3) 以下のコマンドラインを実行します。  
D:¥xml¥Instmsiw.exe /c /t:C:¥temp¥msi  
※CD-ROMドライブがDドライブの場合の例です。  
このコマンドラインでは、「C:¥temp¥msi」フォルダの中に以下の Windowsインストーラファイルを展開します。  
展開先は約4.6MBの空きが必要です。  
Cabinet.dll  
Imagehlp.dll  
Instmsi.msi  
Msi.dll  
Msiexec.exe  
Msihnd.dll  
Msiinst.exe  
Msimsg.dll  
Msls31.dll

Mspatcha.dll  
Riched20.dll  
Shfolder.dll  
Usp10.dll

- (4) 以下のコマンドラインを実行します。  
C:¥temp¥msi¥msiinst.exe /i instmsi.msi /qb+
- (5) 「Windows インストーラのセットアップを正しく完了しました。」 のメッセージが出てきたら、[OK] をクリックします。
- (6) Fujitsu XML Libraryをインストールします。

#### 4. 4 Fujitsu XML Library のアンインストール

Fujitsu XML Library のアンインストール方法について、以下に説明します。なお、他の製品で Fujitsu XML Library を使用している場合があります。Fujitsu XML Library をアンインストールする場合は、他製品が使用していないことを確認してください。

アンインストールは、以下の手順で実施してください。

- (1) コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」を起動します。
- (2) 一覧より「Fujitsu XML Library (5.2.0025)」を選択し、[追加と削除]をクリックします。なお、インストールしている Fujitsu XML Library のバージョンレベルにより、表示されるバージョンレベルが異なる場合があります。
- (3) アンインストーラ起動後は、画面の表示に従いアンインストールを続行してください。

#### 5. SSIS連携機能について

##### 5. 1 インストール

##### 5. 1. 1 インストール手順

- (1) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
- (2) CD-ROMの¥LCSSIS¥setup.exe を起動します。
- (3) インストーラが起動されますので、表示されるメッセージにしたがってインストールを行います。

##### 5. 1. 2 インストールに関する留意事項

- (1) 本製品のインストールは、必ず付属のインストールプログラムで行ってください。COPYコマンドなどで複写した場合は動作しません。
- (2) 本製品のインストールの前に、使用する環境に必須ソフトウェアを必ずインストールしてください。

##### 5. 2 アンインストール

##### 5. 2. 1 アンインストール手順

- (1) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
- (2) SSIS連携機能を使用するユーザアプリケーションが実行中の場合は、そのアプリケーションを終了します。
- (3) [コントロールパネル] から「List Creator SSIS連携機能」をアンインストールします。

##### 5. 2. 2 手動で製品を削除する場合

インストール時の不測の事態により、再インストールまたはアンインストールが正常

に動作しなくなった場合、以下の手順によりハードディスク上から全ての関連資産を削除することで元の環境に復旧することができます。

なお、この作業を行う前に起動中のアプリケーションをすべて終了させてください。

- (1) インストール先のサーバを再起動します。
- (2) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
- (3) 実行コンポーネントを、アセンブリ キャッシュから削除します。
  - a) [エクスプローラ] を起動し、Windowsディレクトリ配下のassemblyフォルダを開きます。
  - b) assemblyディレクトリの内容一覧が表示されますので、一覧に f3gbwdts があれば、その f3gbwdts を右ボタンクリックして、「アンインストール」を実行します。
  - c) [エクスプローラ] 画面を閉じます。
- (4) ファイルを削除します。
  - a) SQL Server 2005インストールディレクトリ配下  
Microsoft SQL Server¥90¥DTS¥PipelineComponents サブディレクトリ内の以下のファイルを削除します。
    - f3gbwdts.dll
  - b) List Creatorインストールディレクトリ配下の以下のファイルを削除します。
    - f3gbwdtw.dll
    - f3gbfdia.dll
- (5) レジストリを削除します。

[レジストリエディタ] (Windowsフォルダ配下のSYSTEM32サブフォルダ内の [REGEDT32.EXE]) を起動し、以下のレジストリキーのうち該当するキー配下を全て削除してください。

  - a) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion ¥Uninstall配下の以下のキー
    - [5E015C01-2E7F-431B-8DF0-64270B67EAB8]
- (6) 上記操作の終了後、コンピュータの再起動を行ってください。

### 5. 2. 3 アンインストール時の留意事項

アンインストール実行中に、キャンセルボタンを押下してアンインストールを中断した場合、アンインストール開始から中断までに削除された一部のファイルは復旧されません。また、一部の環境設定情報も削除されます。

アンインストールを中断した場合、それ以降は製品が正しく動作しませんので、再度アンインストールを実行し、すべてのファイルおよび環境を削除した上で、再度インストールを行ってください。

### 6. 製品版と体験版の違い

- (1) 評価期間は90日です。評価期間を経過しますと本製品を起動できなくなります。Interstageの製品情報については、以下のURLでご覧になれます。  
<http://interstage.fujitsu.com/jp/>
- (2) 体験版のList Creator デザイナで作成した帳票は、体験版のList Creatorでのみ使用可能です。製品版のList Creatorで使用することはできません。

- (3) 体験版のList Creator デザイナで作成した帳票は、必ず「体験版」という文字列が付加されます。

## 7. オンラインマニュアルについて

オンラインマニュアルの参照には、マニュアルナビをご利用ください。マニュアルナビとは、オンラインマニュアルを参照するためのツールです。オンラインマニュアルが目的別に分類されているため、必要なオンラインマニュアルを簡単に参照できます。

マニュアルナビは、以下から起動します。

〈スタートメニューから起動する場合〉

[スタート]－[すべてのプログラム]－[List Creator]－[マニュアルナビ] を起動します。

〈CD-ROM媒体から起動する場合〉

CD-ROMの¥Manual¥LCMaNavi.exe を起動します。

マニュアルナビを使用するには、まずAdobe Reader 6.0以降をコンピュータにインストールする必要があります。

Adobe Readerは、以下のいずれかの方法にて入手してください。

1. アドビシステムズ社のホームページ (<http://www.adobe.co.jp>) からダウンロードする。
2. アドビシステムズ社のAcrobat (製品版) を購入する。
3. 書籍等の付録より入手する。

(\*) Adobe Readerは、PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを開覧・印刷するソフトウェアです。

なお、マニュアルナビから参照できないオンラインマニュアルは、直接、ファイルを参照してください。参照するファイルが格納されているフォルダ、およびファイル名は、オンラインマニュアル「マニュアル体系と読み方」の「マニュアル体系」を参照してください。

## 8. サンプルについて

本製品を使用して帳票を出力するサンプルがデータファイルを使用する場合は42種類 (可変長/固定長/CSV形式: 37種類、XML形式: 5種類)、OCI連携機能によるデータベース (Oracle) 連携は24種類用意してあります。

詳しくは、製品インストールディレクトリ配下のサンプル説明書 (SampleFm.txt、SampleOr.txt、SampleXm.txt) をご覧ください。

また、他に実用的なサンプルを集めた実用サンプル集を 31種類用意してあります。詳しくは、製品インストールディレクトリ配下のサンプル説明書 (PRsample.pdf) をご覧ください。

## 9. 留意事項

### 9. 1 「帳票定義一覧画面」に関する留意事項

- (1) 帳票格納ディレクトリ及び帳票を構成するファイルには書き込み権限および読み取り権限を付けてください。  
また、帳票を編集時に帳票格納ディレクトリのアクセス権を変更しないでください。

- (2) 帳票を編集時に、帳票格納ディレクトリを削除または変名しないでください。

### 9. 2 「帳票様式定義画面」に関する留意事項

- (1) ルーラの縦サイズまたは横サイズが0になるようにウィンドウサイズを変更した場合、ルーラが表示されなくなることがあります。この場合、ウィンドウを一度閉じてから再度開いてください。

- (2) Microsoft(R) IntelliPoint Ver. 2.2を使用している場合、ユニバーサルスクロール機能をオンにすると、ドラッグ中のホイール操作で正しく描画されない場合があります。
- (3) 下敷きイメージ表示時において、ディスプレイドライバによっては以下のような現象が発生する場合があります。
- 下敷きイメージが表示されない。
  - 下敷きイメージが崩れて表示される。
  - 黒い縦縞が表示される。
- この場合、以下の対応を行うことで回避される可能性があります。
- a. ディスプレイドライバのバージョンアップ  
ディスプレイドライバの新しいバージョンでこの問題に対する修正が行われている可能性があります。  
各ディスプレイドライバについては、各製造・販売元にお問い合わせください。
  - b. 画面モードの変更  
[コントロールパネル]の[画面のプロパティ]を開き、「ディスプレイの設定」で色数を変更します。
- (4) グリッド強制がオンの状態で設計時、ディスプレイドライバによっては罫線や枠をコピーして貼り付けても、グリッド線上から少しずれて表示されます。このとき、同グリッド線上のどの位置に貼り付けてもグリッド線上から少しずれて表示されます。また、ディスプレイドライバの解像度を変更した場合でも他のグリッド線上で同様な現象が発生する可能性があります。  
この場合でも、貼り付けられた図形の座標には問題ありません。図形のプロパティ（座標）からも、正常な値であることが確認できます。
- (5) 帳票設計中にシステムの画面のプロパティでウィンドウカラーを変更した場合、書式ツールバーの項目の色、および図形の色ボタンが見えなくなります。システムの画面のプロパティでウィンドウカラーを変更する場合は、一旦帳票様式定義画面を終了させてから変更してください。
- (6) 下敷きイメージのファイルの選択時にフルパスで 260バイトを超えるファイル名のファイルは開くことができません。ファイル名はフルパスで 260バイトを超えないように指定してください。
- (7) 帳票格納ディレクトリ及び帳票を構成するファイルには書き込み権限および読み取り権限を付けてください。  
また、帳票を編集時に帳票格納ディレクトリのアクセス権を変更しないでください。
- (8) 帳票を編集時に、帳票格納ディレクトリを削除または変名しないでください。
- (9) ウィザードにおいて、XMLファイルまたはDTDファイルを参照したときにエラーとなった場合、エラーメッセージには、エラー検出時の読み込み済みの位置が行桁位置として表示されます。この行桁位置は、実際のファイルのエラーの位置とは異なっていることがあります。
- (10) オーバレイ文字の文字範囲を指定した場合、設定されているプリンタによって設定できる最小値が異なる場合があります。プリンタの設定にて帳票出力時に使用するプリンタドライバ、および解像度を設定するか、配置方法で、「指定なし」、「両端揃え」、または「文字幅の自動調整」を指定してください。
- (11) バーコードは用紙、リーダ、出力プリンタの解像度および装置の状態での読み取り精度に影響があるため、実際の運用を行う前に確認してから使用してください。
- (12) パーティションの端にパーティション枠を配置し、パーティションの端に接していない辺にあるリサイズハンドルをマウスで押下して、パーティションの端を越えるように枠の大きさを変更した場合、パーティション枠が対象のパーティシ

ョン外に配置される場合があります。この場合、パーティション枠を対象のパーティション内に移動してください。

- (13) 項目情報ファイルにて取込まれた項目を編集画面に配置せずに格納した場合、非出力項目になります。また、この場合の非出力項目の項目形式は、項目情報ファイルに記載した項目種別に従い、以下のようになります。

項目情報ファイルの項目種別	非出力項目の項目形式
数字項目	数字項目
テキスト項目	テキスト項目
矩形テキスト項目	テキスト項目
OCR-B項目	テキスト項目
ラジオボタン項目	テキスト項目
チェックボックス項目	テキスト項目
バーコード項目	テキスト項目
組込みメディア項目	テキスト項目

- (14) 項目情報ファイルにて取込まれた項目を帳票様式定義の編集画面の定義情報変更にて項目種別を変更し、編集画面に配置せずに保存した場合、変更後の項目種別ではなく、項目情報ファイルに記載した項目種別に従った非出力項目となります。

- (15) 項目情報ファイルにて取込まれた項目を帳票様式定義の編集画面の定義情報変更にて項目種別を変更し、編集画面に配置していない場合は、関連付けリストにてXBRLデータ対応機能、またはNavigator連携機能のデータと関連付けができない場合があります。

- (16) 帳票業務情報のプロパティにて帳票の出力先が指定されていない帳票を、「atdirect」オプションを指定して出力した場合、帳票業務情報のプロパティで表示される出力属性で出力されます。属性を変更する場合は、出力時のオプション、または帳票業務情報のプロパティにて帳票の出力先、および出力属性を指定してください。

- (17) カラーイメージをオーバーレイに変換した場合、以下の文字、および罫線がオーバーレイに変換されない場合があります。
- 背景が白っぽいイメージ上に赤っぽい文字、および罫線がある場合
  - 背景が黒っぽいイメージ上に青っぽい文字、および罫線がある場合
- また、逆に以下の文字、および罫線が必要以上にオーバーレイに変換される場合があります。
- 背景が白っぽいイメージ上に青っぽい文字、および罫線がある場合
  - 背景が黒っぽいイメージ上に赤っぽい文字、および罫線がある場合

### 9. 3 テスト印刷時、プレビューからの印刷時および印刷環境に関する留意事項

- (1) 網がけを重畳する場合、網がけを透過モードで印刷します。しかし、プリンタドライバによっては透過モードが有効にならないものがあります。透過モードが無効になるプリンタドライバを使用して網がけを重畳して印刷すると、行方向で下方に定義されている網がけが後から印刷されるため上に重なって印刷され、下になった網がけは印刷されません。
- (2) プリンタ装置、プリンタドライバ、解像度によって、網がけおよび罫線の出力結果が異なる場合があります。このような場合、利用する環境で出力結果を確認し、図形の位置およびサイズを調整してください。
- (3) 漢字以外の全角文字をプリンタのデバイスフォントで印字すると、文字化けすることがあります。
- (4) デバイスフォントを使用して印字を行うと、指定した文字の大きさに出力されないことがあります。

- (5) プリンタ装置、プリンタドライバ、解像度によっては、指定した文字のサイズで出力されない場合があります。このような場合、利用する環境で出力結果を確認し、項目およびオーバーレイ文字の位置およびサイズを調整してください。
- (6) システムのプールフォルダの容量に空きがない場合、帳票を出力すると、コマンドまたメソッドなどは正常終了するが、帳票が何も出力されない、あるいは途中までしか出力されない場合があります。このような場合、プールフォルダの容量を増やしてから、再度帳票の出力を実行してください。またはシステムのプールフォルダを空き容量の大きなドライブに変更してから、再度帳票の出力を実行してください。
- (7) 段組み印刷時に両面印刷を行うと、両面印刷可能なプリンタでも片面で印刷される場合があります。
- (8) 帳票を出力し、プール中に印刷要求をキャンセルすると、使用しているプリンタドライバによっては、しばらく処理が復帰せず、その後「帳票の出力中にエラーが発生しました。メモリまたはリソースが不足している可能性があります。詳細コード：[86]」というエラーになる場合があります。
- (9) QR Code(モデル1、モデル2、マイクロQR)に数字のみのデータを指定して出力する場合に、“項目長に満たない文字に空白を詰める”を指定すると、QRコードの出力最大文字数は、英数字+記号を指定した場合と同様となります。

9. 4 データベース(Oracle)連携時の留意事項

データベース(Oracle)のデータ型に合わせて、帳票に項目を追加する場合のポイントと、データ取得時のSELECT文の指定形式を説明します。

なお、帳票の項目のプロパティの項目長で指定した指定値よりも実際のデータが長い場合は、項目長で指定した長さに切り捨てられます。

その他の属性(項目名、領域長、位置(縦/横)など)は、適宜設定してください。

項目の属性の設定 データベースのデータ型(*9)	項目種別	項目長	小数部	編集形式(分類)	バーコード種別	データ取得時のSELECT文の指定形式(*1)
VARCHAR2(num) CHAR(num)						
バーコード出力用データ	バーコード項目(*10)	(*2)	—	—	(*3)	項目名
メディアデータファイル名(*4)	組込みメディア項目	num	—	—	—	項目名
上記以外	テキスト項目 矩形テキスト項目 ラジオボタン項目 チェックボックス項目	num	—	標準	—	項目名
LONG	テキスト項目	(*5)	—	標準	—	項目名

	矩形テキスト項目 ラジオボタン項目 チェックボックス項目					
NUMBER (s, p)						
郵便番号	テキスト項目	—	—	郵便	—	LPAD (項目名, 7, '0') (*6)
上記以外	数字項目	s	p	数値	—	項目名
DATE						
出力時に変換する場合	数字項目	—	—	日付	—	TO_CHAR (項目名, 'YYYYMMDD') (*7)
Oracleの初期値の形式で出力する場合	テキスト項目	(*8)	—	標準	—	項目名

- \*1 : データ取得時のSELECT文の指定形式の詳細は、Oracleのマニュアル(SQLリファレンス)を参照してください。
- \*2 : バーコード種別によって異なります。
- \*3 : 出力したいバーコード種別を選択します。
- \*4 : 指定できるメディアデータのファイルは、ビットマップ、TIFF、JPEG、OLE2オブジェクト、PNGです。出力方法により指定できるメディアデータが異なりますので、List Creatorのオンラインマニュアルまたはオンラインヘルプでご確認ください。
- \*5 : 実際のデータの最大長または出力したい最大長を指定します。
- \*6 : 必ず郵便番号の左側の空白を'0'でパディングしてください。
- \*7 : 「YYYYMMDD」の形式でデータを取得してください。
- \*8 : 日付が出力できる長さを指定します。
- \*9 : 上記の表以外のデータベースのデータ型は指定しないでください。
- \*10 : バーコード項目は、英数字データをバーコードに変換して出力します。

#### 9. 5 Database Direct連携機能を使用する場合の留意事項

- (1) Interstage List Manager Database Direct V7.0L10に同梱のNavigator ClientとList Creator デザイナは同じマシンにインストールしてください。
- (2) Interstage List Manager Database Direct V7.0L10に同梱のNavigator ClientはInterstage Navigator Server V8.0.0以降に同梱のNavigator Windows クライアントと同じマシンにインストールできません。Interstage Navigator Server V8.0.0以降に同梱のNavigator Windows クライアントをすべてアンインストールしてからインストールしてください。
- (3) Interstage Navigator Server V6.0L10以降に添付されている Navigator Clientをインストール済みのマシンには改めてNavigator Clientをインストールする必要はありません。

#### 9. 6 Navigator連携機能を使用する場合の留意事項

Interstage Navigator Server V8.0.0以降に同梱のNavigator Windows クライアントとList Creator デザイナは同じマシンにインストールしてください。

#### 9. 7 XML形式の入力データを使用する場合の留意事項

帳票様式定義のウィザードにおいて、XMLファイルまたはDTDファイルを参照した時、またはXML形式の入力データを使用して帳票を出力した後に、エラーとなった場合のエラー内容に表示される行桁位置は、エラー検出時の読み込み済みの位置が表示されますので、実際のファイルのエラーの位置とは異なっていることがあります。

#### 9. 8 オーバレイユーティリティに関する留意事項

(1) Windows Server 2003にService Pack 1が適用されている、または、Windows Server 2003 R2環境でオーバレイユーティリティを使用する場合、「ListCREATORオーバレイユーティリティ 環境設定」画面、および「ListCREATOR オーバレイユーティリティ 出力設定」画面の状況依存ヘルプが表示されない場合があります。状況依存ヘルプが表示されない場合はオーバレイユーティリティのマニュアルの「3.3.2 環境設定(ポートの定義画面)」を参照してください。

(2) セキュリティ更新[KB925902]が適用されている場合、STOP 0x0000007F エラーが表示される場合があります。当現象が発生した場合の対処方法がマイクロソフト社から公開されていますので、以下のURLを参照のうえ、対処してください。

- ・ GDI のセキュリティ更新プログラム 925902 がインストールされている Windows XP または Windows 2000 から印刷すると、STOP 0x0000007F エラーが表示される  
<http://support.microsoft.com/kb/935843>

(3) Windows Vistaにオーバレイユーティリティをインストールした場合、イベントビューアのアプリケーションログに、以下のエラーが出力されることがありますが、そのままお使いいただいて問題ありません。

- ソース : VSS  
イベントID : 8194

#### 9. 9 ERP連携に関する留意事項

Windows Server 2003にService Pack 1が適用されている、または、Windows Server 2003 R2環境でList Creatorプリンタを使用する場合、「ListCREATOR SAP RDI連携 環境設定」画面の状況依存ヘルプが表示されない場合があります。

状況依存ヘルプが表示されない場合はマニュアルの「ERP連携編 2.3.1.2 List Creatorプリンタ」のポートの定義を参照してください。

#### 9. 10 Windows 64 ビットOSで帳票設計を行う場合の留意事項

Windows 64 ビットOS で帳票設計を行う場合、以下の機能は使用できません。

- XBRLデータ対応機能
- オーバレイユーティリティ
- ERP連携機能

#### 9. 11 Windows Vistaでの留意事項

(1) Windows Vistaでは以下の機能は使用できません。

- サイレントインストール
- XBRLデータ対応機能
- ERP連携機能

(2) Windows Vistaに標準添付されるフォントがJIS X 0213:2004に準拠したことにと  
もない、Windows XP、およびWindows Server 2003以前のWindowsと異なる字体で表  
示される文字があります。

また、帳票出力時も同様にWindows XP、およびWindows Server 2003以前のWindows  
と異なる字体で出力される文字があります。Windows XP、およびWindows Server  
2003以前のWindowsと同じ字体で出力する場合は、環境設定の「出力時の動作」タ  
ブの「JIS90規格の字体で出力する」を指定してください。

(3) メイリオフォントを使用した場合、項目の領域やオーバレイの範囲と文字の描  
画位置が異なります。メイリオフォントは使用しないでください。

## 9. 1.2 Windows Server 2008を使用する場合の留意事項

- (1) Windows Server 2008で帳票設計を行う場合、以下の機能は使用できません。
  - ビルドインAdministrator以外のユーザでのサイレントインストール
  - XBRLデータ対応機能
  - ERP連携機能
- (2) List Creatorは、Server Coreに対応していません。
- (3) Windows Server 2008に標準添付されるフォントがJIS X 0213:2004に準拠したことにともない、WindowsXP、およびWindows Server 2003以前のWindowsと異なる字体で表示される文字があります。  
また、帳票出力時も同様にWindowsXP、およびWindows Server 2003以前のWindowsと異なる字体で出力される文字があります。WindowsXP、およびWindows Server 2003以前のWindowsと同じ字体で出力する場合は、環境設定の「出力時の動作」タブの「JIS90規格の字体で出力する」を指定してください。
- (4) メイリオフォントを使用した場合、項目の領域やオーバーレイの範囲と文字の描画位置が異なります。メイリオフォントは使用しないでください。

## 9. 1.3 データ保全に関する留意事項

万一の場合に備えて、ユーザアプリケーションや帳票資源などのバックアップをとっておくことをお勧めします。帳票資源は帳票設計を行ったコンピュータにも保存するようにしてください。

## 10. セキュリティについて

本製品は、利用する場合は外部ネットワークと内部ネットワーク間がファイアウォールにより保護されているイントラネット環境内で使用してください(または、インターネットに接続されていない環境で使用してください)。

## 11. ご使用条件

本製品をご提供するにあたり下記にご同意いただくことを条件とさせていただいておりますので、本製品をご使用される前に必ず下記をお読みください。

なお、お客様がご使用された場合には、同意いただいたものとしますので、万一同意いただけない場合には、使用しないでください。

- ・本製品は日本国内での使用が原則です。お客様のご都合により本ソフトウェアを日本国外へ輸出等することにより持ち出す必要がある場合は、「外国為替および外国貿易法」に基づき経済産業省の許可が必要となります。なお、お客様が、本ソフトウェアを日本国外に持ち出し、使用された場合に、日本および当該国の法令等に違反していることで政府または第三者より何らかの請求または訴えの提起を受け、お客様が何らかの支障や損害を被っても、弊社は一切責任を負いません。また、お客様が本項に違反することにより弊社が損害を被った場合、お客様にその賠償を請求する場合があります。

## 付録. libjpegについて

本製品は、JPEG の出力機能において、libjpeg を使用しています。  
This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

=====  
Interstage、Systemwalker、およびSymfoware は、富士通株式会社の登録商標です。  
ActiveX、Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、Visual Basic、Visual C++、Visual C#、Visual J# は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。  
Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat、およびAcrobat ロゴは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標または商標です。

Oracle は、米国Oracle Corporation の登録商標です。  
Interstage、Systemwalker、およびSymfoware は、富士通株式会社の登録商標です。  
その他の社名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

Copyright 2008 FUJITSU LIMITED  
All Rights Reserved, Copyright (C) 株式会社 P F U 2001-2008.